

## ムージルとケルンテン州の分子

日本のゲルマニスト早坂七緒が彼の著書“Robert Musil und der genius loci”（ムージルと土地の神）について語る。困難なのは、帝＝王室君主国の理解と「野バラ」。

**著者略歴** 1947年7月23日宮城県生まれ。東京大学卒業後講師職、1993年から中央大学教授。ドイツ語および一般教養担当。ムージル関係の論文および翻訳多数。国際ローベルト・ムージル学会員。

どのようにして、日本人のあなたがローベルト・ムージルに興味をもつようになったのですか？

**早坂七緒**：トーマス・マンを経由してムージルにたどりつきました。高校の国語の時間に、マンの「神童」を翻訳で読みました。大学生となった18歳でやっとドイツ語を習い（12歳で習うことができたなら！）、トーマス・マンのボン大学に宛てた書簡を読みました。当時はマンが大いにもてはやされていました。それから徐々にムージルに移行していきました。先輩のムージル研究家たちが、いわば高度に発達したマンとして、ムージルを読んでいたからです。

最初に出会ったムージルの本を覚えていますか？

**早坂**：『陸軍生徒テルレスの混乱』を翻訳で読みました。まるで悪夢でした。翻訳は悪くなかったのですが、全体の状況がまるで分からなかったのです。なぜ「有名な寄宿学校」が人里離れた田舎にあるのか？なぜ生徒たちは地元の女性たちとドイツ語で会話できないのか？ハプスブルク帝国について知らなさすぎたのです。「世界史」の授業でハプスブルクというと、マリア・テレジアとマリー・アントワネットのみで、あとは——すごく間隔があいて——不幸なフランツ・フェルディナントが出てくるだけです。1981年にやっと日本にもオーストリア文学会が設立され、1990年にクラウディオ・マグリスの『ハプスブルク神話』が邦訳されました。わたしはそれから、ムージルが言及している場所をすべて訪れて、物語の舞台についての知識を得ました。今やっと、作品の内容や核心に集中することができるかな、というところです。

『テルレス』を読んだ当時、すぐに感動しましたか？

**早坂**：「永遠」とか「虚数」のような概念に困難を感じるこの生徒に、共感は懐きました。わたし自身も郷里（東北地方）を遠く離れて、大学や寮ではわずかな友人しか得られませんでした。『テルレス』の全体的な寄る辺なさを、当時わたしも感じていました。それ以上ではありません。ムージルへの熱狂は、『特性のない男』を読んでからで

す。

御著書“Robert Musil und der genius loci“で、ムージルが生後9ヶ月しか居なかったクラゲンフルトを、ムージルの故郷と呼んでよいかという問いに、あなたは実に変わった回答をだしていますね？

早坂：本にあるように、父アルフレート・ムージルは遅くとも1873年9月にはクラゲンフルトに着任し、ローベルト・ムージルは1880年11月に生まれています。もし『魔の山』にあるように、人体を構成する分子が7年ごとにすべて入れ替わるなら、アルフレート・ムージルは100パーセント、ケルンテン州の分子で置き換わっていたわけです。以下の部分は校正の過程で草稿からカットされたのですが、「ヘルミーネ・ムージル（1874年10月からクラゲンフルト在住）の場合、妊娠した時点で70から80パーセントであった。胎児は母をとおして地域の栄養を取りこむ。その意味でローベルト・ムージルは、少なくとも物理的なレベルでは、この地の産物、**made in Klagenfurt** と言ってよい」のです。どう見てもローベルト・ムージル自身は、クラゲンフルトっ子だという意識は持っていなかった。父アルフレートが、ここに8年間住んでいたにもかかわらず、ローベルトの生まれた町を訪れまいとしたこともあります。もっともムージルは、シュタイアに9年住んでいた（1882年～1891年）のに、「シュタイアの子」だという意識も、あきらかに持っていませんでした。個々の具体的な地方都市にではなく、彼の愛着は——およそ愛着があるとすれば——カカーニエン全体にだけ向けられていたのです。

あなたはカール・コリーノの『ムージル 伝記』の翻訳に取り組んでおられますね。これは注も含めて2000頁の大作です。どのように仕事を進めていますか？

早坂：われわれは出版直後の2003年に開始しました。この間、翻訳チームの三人の女性が結婚し出産しました。第一分冊は刊行され、第二分冊の再校は済み、目下12名から成るチームは第三分冊に取り組んでいます。調べるべき事柄が沢山あります。たとえば固有名詞すべてに割注を施しています。共訳者それぞれが、1章を担当します。しかし訳稿は少なくとも3回、チェックされ添削されます。これは匿名で別の共訳者により行われるわけです。そして最後に訳者代表のわたしが、全部をチェックします。第三分冊は2年後に発行されるでしょう。チームの戦力はいずれにせよ減少しています。

あなたはゲルマニストとして、理工学部で教えています。どういう事情なのでしょう？

早坂：中央大学は人文主義的科目も提供しているのです。社会科学、人文科学、外国語もです。わたしは「語学」グループに属していますが、ここにはヘテロに、法学、教育学、哲学、英語、フランス語などの教師がいます。ドイツ語のほかには「オペラとオペレッタ」のゼミもやっています。これもまたオーストリアとご縁があります。添付の写真でも、わたしが「野バラ」を例にして、曲がト長調からニ長調に転調し、しばしロ短調に繋留すると説明している様子がわかるでしょう。このような時間は楽しいものです。同僚たちが、わたしの学術的成果をいつも評価してくれるとは限りません。学生たちはさらに理解できないでしょう。いわば埋もれた教師として、ローベ

ルト・ミュージルにかすかに共感を覚えることもあります。彼もまた、生前真価を認められることは稀だったのです。